世界遺産委員会決議に係る今後の対応について(案)

- 1 今後のモニタリング調査のあり方について 決議文:「サケ科魚類の移動と産卵の状況のモニタリングを継続」
- (1) 現行のモニタリング調査について
- ① 河川工作物改良効果等を把握するための遡上等モニタリング 原則、改良後3年で終了することとなっている。具体的には、以下のとおり。

改良工事実施時期とモニタリング調査計画											
河川名		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	改良年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
イワウベツ川											
赤イ川	$H18 \sim 22$	A -		*	_	_					
ピリカベツ川	H19				1			\rightarrow			
ルシャ川	H18	••	\bigvee			>					
サシルイ川	H19		••	\bigvee			•				
チェンベツ川	$H20 \sim 21$			•							
羅臼川	H21 ∼ 24				•			-			
▲:改良工事(北海道森林管理局) ★:改良工事(斜里町)											

注)上記表の▲、★、●は、それぞれ1基の河川工作物を示している。 ピリカベツについては、河川 AP の議論からモニタリングを2年間延長。

②長期モニタリング(遺産地域が遺産地域たる資質を保持し続けているか等の把握) 平成 24 年度(H24 は試行的な実施)からルシャ川(改良河川)、テッパンベツ川(自然 河川) 及びルサ川(自然河川)で実施。具体的には以下のとおり。

長	期モニタリンク	"調査計画										
河川	名		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
		改良年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ルシ	ヤ川	H18	0	•		•		•		•		•
テッ	パンベツ川	自然河川	0	•		•		•		•		•
ルサ	Л	自然河川	0	•		•		•		•		•

○:遡上等モニタリング(試験的) ●:遡上等モニタリング

注) カラフトマス豊漁年(奇数年)に併せ、モニタリングを実施

(2) 今後のモニタリング調査(案) について

世界遺産委員会決議により、平成27年(2015年)2月1日までに世界遺産センターに保全状況報告を提出する必要があることを踏まえ、これまでのモニタリング調査計画を以下のように修正することとしたい。

①河川工作物改良効果等を把握するための遡上等モニタリング

全ての改良河川で平成25年度、26年度と2年連続モニタリング調査を実施する とともに、さらに5年後の平成31年(豊漁年)、32年(不良年)にも実施したい

改良工事実施時期とモニタリング調査計画												
河川名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H31	H32
	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2019	2020
イワウベツ川										3		}
赤イ川	A -		*	A	A				0	3	0	O
ピリカベツ川				7				0	0	3	0	0
ルシャ川	••	\bigvee			>				0	3		0
サシルイ川		••			\searrow			0	0	3	0	0 }
チエンベツ川			•				$\left\langle \right\rangle$	0	0	Č	0	0
羅臼川				•			-				0	O

▲: 改良工事(北海道森林管理局) ★: 改良工事(斜里町) ●: 改良工事(北海道庁) : モニタリング期間

◎:新たな改良効果モニタリングの提案年

2 ルシャ川に係る今後の対応について

決議文:「サケ科魚類の移動と産卵を確保するために、ルシャ川において、必要に応じて、その他の適切な手段を含む河川工作物のさらなる改良を行うことを検討」

○ 平成18年度において実施したルシャ川の河川工作物改良の効果と課題については、現在、ワーキングチームで議論をしているところ。

【主な委員意見】

- ・サケ科魚類を遡上させるダム改良自体は成功している。
- ・18年度に改良しなかった第1ダムも改良の余地がある。
- ・核心地域らしい状態のルシャ川に戻った訳ではない。特に、ダムが扇状地の真 ん中にあることが、産卵床の形成の妨げになっているのではないか。
- ・ダムが小さい砂礫を溜めることにより、サケ科魚類にプラスに働いた可能性が ある。
- ・全くの自然状態と現状を比較するには、ダム建設前のデータがないため想像の 域をでない。

○ 今後の対応(案)

ルシャ川については、リファレンスとなりうるテッパンベツ川(河川工作物なし)とともに上記1のとおりのモニタリング調査を実施する予定であり、その結果をはじめ、ワーキングチームでの議論、さらには当該工作物をとりまく社会的情勢等も踏まえた検討を行うこととする。



ルシャ川:平成21年(2009)8月撮影